

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6744206号
(P6744206)

(45) 発行日 令和2年8月19日(2020.8.19)

(24) 登録日 令和2年8月3日(2020.8.3)

(51) Int.Cl.	F 1
A 6 1 F 13/51 (2006.01)	A 6 1 F 13/51
A 6 1 F 13/49 (2006.01)	A 6 1 F 13/49 4 1 O
A 6 1 F 13/494 (2006.01)	A 6 1 F 13/49 3 1 1 Z
	A 6 1 F 13/494 2 O O

請求項の数 7 (全 23 頁)

(21) 出願番号	特願2016-250086 (P2016-250086)	(73) 特許権者	000000918 花王株式会社
(22) 出願日	平成28年12月22日(2016.12.22)		東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番1 0号
(65) 公開番号	特開2018-102429 (P2018-102429A)	(74) 代理人	110002170 特許業務法人翔和国际特許事務所
(43) 公開日	平成30年7月5日(2018.7.5)	(72) 発明者	福田 優子 栃木県芳賀郡市貝町赤羽2606 花王株 式会社研究所内
審査請求日	令和1年9月12日(2019.9.12)	(72) 発明者	梶原 順 栃木県芳賀郡市貝町赤羽2606 花王株 式会社研究所内
		(72) 発明者	奥田 泰之 栃木県芳賀郡市貝町赤羽2606 花王株 式会社研究所内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 使い捨ておむつ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

着用者の腹側に配される腹側領域および着用者の背側に配される背側領域と、それらの間に位置する股下領域とを備えると共に、該腹側領域から該背側領域に延びる縦方向と該縦方向に直交する横方向とを備え、前記腹側領域と前記背側領域とに亘って吸収体を有し、該吸収体の縦方向の前後端部それぞれから外方に位置して横方向に延びる腹側ウエストフラップ及び背側ウエストフラップを有する使い捨ておむつであって、

前記背側ウエストフラップには、横方向に伸長状態で配された弾性部材による伸縮領域が形成されており、

前記背側ウエストフラップは、前記伸縮領域において、親水性の繊維からなる親水性領域を備えた不織布を有し、

前記親水性領域を備えた不織布は前記背側領域の縦方向の外端部に位置する折り返し部にて折り返されて、少なくとも一方の折り返し部分が前記弾性部材よりも着用者の肌に近い側に配されており、

前記親水性領域は、縦方向の長さに関し、着用者の肌に近い側が長くなるように前記折り返し部を跨いでおり、

前記親水性領域は、着用者の肌に近い側に配され且つ前記折り返し部から縦方向に長く延在する親水性長寸部と、該親水性長寸部から着用者の肌に遠い側に配され且つ該親水性長寸部よりも縦方向に短い親水性短寸部とに区分され、

前記背側ウエストフラップを構成する不織布は、前記親水性領域を備えた不織布以外に

疎水性の繊維からなる第2疎水性不織布を有し、
前記第2疎水性不織布が、前記親水性長寸部よりも着用者の肌に近い側に配されており

前記第2疎水性不織布と前記親水性長寸部とが、熱融着部で固定されている、使い捨て
おむつ。

【請求項2】

前記親水性長寸部と前記親水性短寸部とは、前記折り返し部にて固定されていない、請求項1に記載の使い捨ておむつ。

【請求項3】

前記親水性長寸部と前記親水性短寸部とは、該親水性短寸部の全域で互いに固定されていない、請求項2に記載の使い捨ておむつ。 10

【請求項4】

前記親水性短寸部は、前記弾性部材よりも着用者の肌に遠い側に配されており、前記親水性長寸部と前記親水性短寸部とで、前記弾性部材を挟んでいる、請求項1～3の何れか1項に記載の使い捨ておむつ。

【請求項5】

前記親水性短寸部は、前記弾性部材よりも着用者の肌に遠い側に配されており、前記背側ウエストフラップを構成する不織布は、前記親水性領域を備えた不織布、及び前記第2疎水性不織布以外に、疎水性の繊維からなる疎水性不織布を有し、

前記親水性長寸部と前記親水性短寸部とで、前記疎水性不織布を挟んでいる、請求項1～4の何れか1項に記載の使い捨ておむつ。 20

【請求項6】

前記弾性部材は、横方向中央領域において、前記親水性短寸部と固定されていない、請求項1～5の何れか1項に記載の使い捨ておむつ。

【請求項7】

前記親水性領域は、前記背側ウエストフラップを構成する前記親水性領域を備えた不織布の全域の一部に親水化剤を塗布して形成されている、請求項1～6の何れか1項に記載の使い捨ておむつ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、使い捨ておむつに関する。

【背景技術】

【0002】

使い捨ておむつには、吸収体を備えた縦長の吸収性本体の外側に外装体が配されている所謂パンツ型の使い捨ておむつがある。本出願人は、先に、このようなパンツ型の使い捨ておむつの外装体における背側エンドフラップに、幅方向に高度に配向した長繊維を有する親水性ウェブを配置し、汗を吸収し、湿疹、あせも、かぶれ等の発生が効果的に防止できる技術を提案した(例えば、特許文献1)。

【0003】

また、特許文献2には、汗を吸収する吸汗シートが、おむつの前後胴周り域の内面を覆う疎水性シートに接合されている使い捨ておむつが開示されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献1】特開2006-141549号公報

【特許文献2】特開2007-259874号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

10

20

30

40

50

本発明者らは、パンツ型使い捨ておむつの外装体の長手方向の端部に、汗を吸収する吸汗シートを配置すると、吸汗シートに吸収された汗が外装体の端部から蒸発し易く、パンツ型使い捨ておむつの着用時の蒸れ感を抑えることができることを見出した。

【0006】

しかし、特許文献1及び2には、パンツ型使い捨ておむつの外装体における長手方向の端部に、吸汗シートを用いて、積極的に吸収した汗を移行させる手段に関して、何ら記載されていない。

【0007】

したがって本発明は、前述した従来技術が有する欠点を解消し得る使い捨ておむつを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0008】

本発明は、着用者の腹側に配される腹側領域および着用者の背側に配される背側領域と、それらの間に位置する股下領域とを備えると共に、該腹側領域から該背側領域に延びる縦方向と該縦方向に直交する横方向とを備え、前記腹側領域と前記背側領域とに亘って吸収体を有し、該吸収体の縦方向の前後端部それぞれから外方に位置して横方向に延びる腹側ウエストフラップ及び背側ウエストフラップを有する使い捨ておむつであって、前記背側ウエストフラップには、横方向に伸長状態で配された弾性部材による伸縮領域が形成されており、前記背側ウエストフラップは、前記伸縮領域において、親水性の繊維からなる親水性領域を備えた不織布を有し、前記親水性領域を備えた不織布は前記背側領域の縦方向の外端部に位置する折り返し部にて折り返されて、少なくとも一方の折り返し部分が前記弾性部材よりも着用者の肌に近い側に配されており、前記親水性領域は、縦方向の長さに関し、着用者の肌に近い側が長くなるように前記折り返し部を跨いでいる、使い捨ておむつを提供するものである。

【発明の効果】

【0009】

本発明によれば、湿疹、汗疹、かぶれ等の皮膚トラブルを低減することが期待できる。

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】図1は、本発明の好ましい一実施形態であるパンツ型使い捨ておむつの斜視図である。

【図2】図2は、図1に示すおむつを展開して引き伸ばした状態を肌当接面側から視た一部破断展開平面図である。

【図3】図3は、図1に示すIII-III線断面図である。

【図4】図4は、本発明の好ましい別の実施形態のパンツ型使い捨ておむつの腹側領域A及び背側領域Bの縦断面図である(図3相当図)。

【図5】図5は、本発明の好ましいまた別の実施形態のパンツ型使い捨ておむつの腹側領域A及び背側領域Bの縦断面図である(図3相当図)。

【図6】図6は、本発明の好ましい更に別の実施形態のパンツ型使い捨ておむつの腹側領域A及び背側領域Bの縦断面図である(図3相当図)。

【図7】図7は、本発明の好ましいまた別の実施形態のパンツ型使い捨ておむつの腹側領域A及び背側領域Bの縦断面図である(図3相当図)。

【図8】図8は、本発明の好ましい別の実施形態のパンツ型使い捨ておむつの腹側領域A及び背側領域Bの縦断面図である(図3相当図)。

【発明を実施するための形態】

【0011】

以下、本発明をその好ましい実施形態に基づき図面を参照しながら説明する。

本発明の使い捨ておむつは、着用者の腹側に配される腹側領域Aおよび着用者の背側に配される背側領域Bと、それらA、Bの間に位置する股下領域Cとを備えると共に、腹側領域Aから背側領域Bに延びる縦方向Xと縦方向Xに直交する横方向Yとを備えている。

10

20

30

40

50

また、本発明の使い捨ておむつは、腹側領域 A と背側領域 B とに亘って吸収体 23 を有し、吸収体 23 の縦方向 X の前後端部 23 A , 23 B それぞれから外方に位置して横方向 Y に延びる腹側ウエストフラップ F A 及び背側ウエストフラップ F B を有している。ここで、腹側領域 A とは使い捨ておむつの着用時に着用者の腹側に配される領域であり、背側領域 B とは使い捨ておむつの着用時に着用者の背側に配される領域である。そして、腹側ウエストフラップ F A とは、吸収体 23 の縦方向 X の腹側領域 A 側の前端部 23 A の外端縁 23 A 1 から縦方向 X 外方に位置して横方向 Y に延びる領域と、吸収体 23 の縦方向 X の腹側領域 A 側の前端部 23 A から横方向 Y に延びる領域とを合わせた領域を意味する。また、背側ウエストフラップ F B とは、吸収体 23 の縦方向 X の背側領域 B 側の後端部 23 B の外端縁 23 B 1 から縦方向 X 外方に位置して横方向 Y に延びる領域と、吸収体 23 の縦方向 X の背側領域 B 側の後端部 23 B から横方向 Y に延びる領域とを合わせた領域を意味する。

10

【0012】

図 1 及び図 2 には、本発明の使い捨ておむつの一実施形態であるパンツ型使い捨ておむつ 1 (以下、「おむつ 1」ともいう。) が示されている。おむつ 1 は、図 1 及び図 2 に示すとおり、吸収性本体 2 と、吸収性本体 2 の非肌対向面側に配されて該吸収性本体 2 を固定する外装体 3 とを備え、外装体 3 は、吸収性本体 2 を構成する吸収体 23 の縦方向 X の前後端部 23 A , 23 B から外方に位置して横方向 Y に延びる腹側ウエストフラップ F A 及び背側ウエストフラップ F B を有している。おむつ 1 は、外装体 3 の腹側領域 A の左右両側縁部 3 a 1 , 3 a 1 と外装体 3 の背側領域 B の左右両側縁部 3 b 1 , 3 b 1 とが接合されて一対のサイドシール部 S , S、ウエスト開口部 W H 及び一対のレッグ開口部 L H , L H が形成されている使い捨ておむつである。好適に、おむつ 1 の外装体 3 は、図 2 に示すように、展開させかつ伸長させた状態を平面視して、着用時に着用者の腹側に配される腹側領域 A、着用時に着用者の背側に配される背側領域 B、及び腹側領域 A と背側領域 B との間の股下領域 C に区分されている。

20

【0013】

上述したおむつ 1 を展開させかつ伸長させた状態とは、図 2 に示すように、サイドシール部 S を引き剥がして、おむつ 1 を展開状態とし、その展開状態のおむつ 1 を、各部の弾性部材を伸長させて、設計寸法 (弾性部材の影響を一切排除した状態で平面状に広げたときの寸法と同じ) となるまで広げた状態を意味する。

30

【0014】

本明細書において、「肌対向面」とは、おむつ 1 又はその構成部材における、着用時に着用者の肌側、即ち、相対的に着用者の肌に近い側に向けられる面であり、「非肌対向面」とは、おむつ 1 又はその構成部材における、着用時に着用者の肌側とは反対側 (着衣側)、即ち、相対的に着用者の肌から遠い側に向けられる面である。おむつ 1 において、縦方向 (X 方向) とは、平面に展開させかつ伸長させた状態で、腹側領域 A から背側領域 B にわたる方向のことである。また、横方向 (Y 方向) とは、縦方向 (X 方向) と直交する方向であり、平面に展開させかつ伸長させた状態のおむつ 1 の幅方向のことである。

また、おむつ 1 は、図 2 に示す、縦方向 (X 方向) に延びる縦中心線 C L 1 に対して左右対称形となっている。尚、図 2 中の C L 2 は、おむつ 1 を縦方向 (X 方向) に二分する横方向 (Y 方向) に延びる横中心線であり、縦中心線 C L 1 に直交している。

40

【0015】

おむつ 1 では、吸収性本体 2 は、図 2 に示すとおり、おむつ 1 を展開させかつ伸長させた状態において、縦方向 (X 方向) が相対的に長い縦長の形状を有している。吸収性本体 2 は、肌対向面を形成する液透過性の表面シート 21 と、非肌対向面を形成する液難透過性 (撥水性も含む) の裏面シート 22 と、これら両シート 21 , 22 間に介在配置された液保持性の吸収体 23 とを具備する。おむつ 1 では、吸収体 23 は、吸収性能を有する吸収性コア 231 を液透過性の被覆シート 232 によって被覆されて形成されたものであり、吸収性本体 2 の縦方向 (X 方向) の全長は吸収体 23 のそれと同じであり、吸収体 23 の前後端部 23 A , 23 B の外端縁 23 A 1 , 23 B 1 の位置は、図 2 に示すように、吸

50

収性本体 2 の前後端部の外端縁の位置と同位置にある。また、吸収性本体 2 の縦方向 (X 方向) に沿う両側部には、図 2 に示すように、縦方向 (X 方向) に伸長状態で配された弾性部材 2 5 を有する防漏カフ 2 4 , 2 4 が設けられている。具体的には、防漏カフ 2 4 は、液不透過性又は撥水性で且つ通気性の素材から構成されており、各防漏カフ 2 4 の自由端部近傍には、防漏カフ形成用弾性部材 2 5 が縦方向 (X 方向) に伸長した状態で配されている。おむつの着用時には、防漏カフ形成用弾性部材 2 5 の収縮により防漏カフ 2 4 の自由端部側が起立して、横方向 (Y 方向) への体液の流出が阻止される。

【 0 0 1 6 】

以上のように構成された吸収性本体 2 は、図 2 に示すように、その縦方向 (X 方向) を、展開かつ伸長状態におけるおむつ 1 の縦方向 (X 方向) に一致させて、外装体 3 の中央部に、本体固定用接着剤によって接合されている。このように、外装体 3 は、使い捨ておむつ 1 の厚み方向における、吸収性本体 2 を構成する裏面シート 2 2 の非肌対向面側に配されて接着固定されている。従って、おむつ 1 では、吸収性本体 2 を構成する吸収体 2 3 が、腹側領域 A と背側領域 B とに亘って配されている。

【 0 0 1 7 】

背側ウエストフラップ F B には、横方向 (Y 方向) に伸長状態で配された弾性部材 7 1 による伸縮領域 S T が形成されているところ、おむつ 1 では、図 2 及び図 3 に示すように、吸収体 2 3 の縦方向 X の前後端部 2 3 A , 2 3 B から外方に位置して横方向 Y に延びる腹側ウエストフラップ F A 及び背側ウエストフラップ F B には、それぞれ、横方向 (Y 方向) に伸長状態で配された弾性部材 7 1 による伸縮領域 S T が形成されている。好適に、外装体 3 は、おむつ 1 では、着用時においておむつ 1 の外面即ち非肌対向面を形成する外層シート 6 と、外層シート 6 の肌対向面に対向配置された内層シート 5 との積層体を含んで構成されている。おむつ 1 の着用時において、外層シート 6 は着用者の肌から遠い側に位置して、おむつ 1 の非肌対向面 (外面) を形成し、内層シート 5 は、外層シート 6 よりも着用者の肌に近い側に位置して、おむつ 1 の肌対向面 (内面) を形成する。外層シート 6 と内層シート 5 とは、所定の部位において接着剤、ヒートシール、高周波シール、超音波シール等の接合手段を介して互いに接合されている。

【 0 0 1 8 】

おむつ 1 では、内層シート 5 は、図 2 及び図 3 に示すように、背側領域 B においてのみ、おむつ 1 の背側領域 B における縦方向 X の外端部 1 B、言い換えれば、ウエスト開口部 W H の周縁部に位置する折り返し部 R P にて折り返されて、少なくとも一方の折り返し部分 5 E が横方向 (Y 方向) に伸長状態で配された弾性部材 7 1 よりも着用者の肌に近い側に配されている。おむつ 1 では、一方の折り返し部分 5 E が、折り返し部 R P を介して、残りの内層シート 5 の肌対向面に当接するように重なっている。内層シート 5 は、おむつ 1 では、疎水性の繊維からなる疎水性不織布で形成されている。このように、おむつ 1 では、背側ウエストフラップ F B を構成する疎水性の繊維からなる疎水性不織布に、内層シート 5 が該当している。

【 0 0 1 9 】

また、おむつ 1 では、外層シート 6 は、図 2 及び図 3 に示すように、腹側領域 A 及び背側領域 B において、内層シート 5 の縦方向 X の外端縁 5 B 1 (後述する折り返し部 R P の頂点) から延出し、ウエスト開口部 W H の周縁部に沿って内層シート 5 の肌対向面側に折り返された外層の折り返し部分 6 E を有し、該外層の折り返し部分 6 E は、吸収体 2 3 の縦方向 X の前後端部 2 3 A , 2 3 B、即ち、吸収性本体 2 の縦方向 X の前後端部を被覆している。外層の折り返し部分 6 E と内層シート 5 (一方の折り返し部分 5 E を含む) とは、所定の部位において接着剤、ヒートシール、高周波シール、超音波シール等の接合手段を介して互いに接合されている。

【 0 0 2 0 】

上述のように、おむつ 1 では、外装体 3 は、図 2 に示すように、おむつ 1 の外面を形成する非肌対向面側の外層シート 6、最も肌対向面側の外層の折り返し部分 6 E、並びに、外層シート 6 と外層の折り返し部分 6 E との間に配された内層シート 5 及び内層の折り返

10

20

30

40

50

し部分 5 E を有している。おむつ 1 では、内層の折り返し部分 5 E 及び外層の折り返し部分 6 E を除く外層シート 6 及び内層シート 5 は、縦方向 (X 方向) 中央部において縦中心線 C L 1 に向かって内方に括れており、互いに同形同大に形成されている。内層シート 5 の一方の折り返し部分 5 E で形成された内層の折り返し部分 5 E は、背側領域 B において、横方向 (Y 方向) に長い矩形状に形成されている。外層シート 6 の折り返し部分 6 E で形成された外層の折り返し部分 6 E は、腹側領域 A 及び背側領域 B それぞれにおいて、横方向 (Y 方向) に長い矩形状に形成されている。外層の折り返し部分 6 E、内層シート 5 及び外層シート 6 は、それぞれ、別体のシートであってもよいが、おむつ 1 では、外層の折り返し部分 6 E が、外層シート 6 の折り返し部分によって形成されている。このように、おむつ 1 では、背側ウエストフラップ F B においては、着用者の肌に近い側から遠い側 10 に向かって、外層の折り返し部分 6 E、内層の折り返し部分 5 E、内層シート 5、外層シート 6 の順に配されている。また、おむつ 1 では、腹側ウエストフラップ F A においては、着用者の肌に近い側から遠い側に向かって、外層の折り返し部分 6 E、内層シート 5、外層シート 6 の順に配されている。

【 0 0 2 1 】

また、おむつ 1 では、外装体 3 は、図 2 に示すように、内層シート 5 と外層シート 6 との間に、横方向 (Y 方向) に伸長した状態で、縦方向 (X 方向) に間欠的に配された複数の糸状又は帯状の弾性部材 7 1 を有している。おむつ 1 では、複数の弾性部材 7 1 を備えることにより、ウエスト伸縮部 G 1 及び胴回り下部伸縮部 G 2 を有する伸縮領域 S T を形成している。また、おむつ 1 では、内層シート 5 と外層シート 6 との間に、図 2 に示すよ 20 うに、伸長した状態の複数の糸状又は帯状のレッグ弾性部材 7 2 を有している。おむつ 1 では、複数のレッグ弾性部材 7 2 を備えることにより、レッグ伸縮部 G 3 を形成している。レッグ伸縮部 G 3 は、図 2 に示すように、レッグ開口部 L H の周縁部に形成されている。

【 0 0 2 2 】

おむつ 1 では、ウエスト伸縮部 G 1 は、図 2 に示すように、縦方向 (X 方向) において、吸収性本体 2 を構成する吸収体 2 3 の縦方向 (X 方向) の前後端部 2 3 A , 2 3 B の外端縁 2 3 A 1 , 2 3 B 1 よりも縦方向 X の外方 (横中心線 C L 2 側と反対側) に位置するエンドフラップに形成されている。また、おむつ 1 では、胴回り下部伸縮部 G 2 は、縦方向 (X 方向) において、ウエスト伸縮部 G 1 の横中心線 C L 2 側の下端とサイドシル部 30 S の下端との間に位置するサイドフラップに形成されている。上述した背側ウエストフラップ F B 及び腹側ウエストフラップ F A は、前記エンドフラップ (ウエスト伸縮部 G 1) に、前記サイドフラップ (胴回り下部伸縮部 G 2) の一部を合わせた領域でもある。

【 0 0 2 3 】

おむつ 1 では、外装体 3 は、図 2 に示すように、内層シート 5 及び外層シート 6 を接合する複数の接合部 8 を有している。おむつ 1 では、背側ウエストフラップ F B 及び腹側ウエストフラップ F A は、内層シート 5 と外層シート 6 とが、散点状に配置された複数の熱融着による接合部 8 にて接合固定されて形成されている。おむつ 1 では、腹側領域 A 及び背側領域 B それぞれのウエスト伸縮部 G 1 から胴回り下部伸縮部 G 2 に亘る領域に、内層シート 5 と外層シート 6 との接合部 8 が、縦方向 (X 方向) に沿って一列をなすように間 40 欠的に配されており、その複数の接合部 8 からなる接合部列 8 L が、横方向 (Y 方向) に間隔を開けて複数列配されている。

【 0 0 2 4 】

おむつ 1 は、図 2 に示すように、接合部 8 で固定された内層シート 5 と外層シート 6 との間に、横方向 (Y 方向) に伸長した状態で配され且つ縦方向 (X 方向) に間欠的に配された複数の弾性部材 7 1 を有している。好適に、おむつ 1 では、腹側領域 A 及び背側領域 B それぞれのウエスト伸縮部 G 1 から胴回り下部伸縮部 G 2 に亘る領域に、複数本の弾性部材 7 1 が、それぞれ、複数の接合部列 8 L それぞれの接合部 8 どうし間の隙間を通して、横方向 (Y 方向) に伸長状態で配されている。

【 0 0 2 5 】

10

20

30

40

50

また、おむつ 1 では、図 2 に示すように、外装体 3 の腹側領域 A の両側縁部 3 a 1 , 3 a 1 及び外装体 3 の背側領域 B の両側縁部 3 b 1 , 3 b 1 に、内層シート 5 と外層シート 6 とが弾性部材固定用接着剤を介して接合された一対の外側固定領域 3 T 1 , 3 T 1 を有しており、また、吸収性本体 2 の縦方向 (X 方向) に沿う両側部の近傍に、内層シート 5 と外層シート 6 とが弾性部材固定用接着剤を介して接合された一対の本体側固定領域 3 T 2 , 3 T 2 を有している。

【 0 0 2 6 】

おむつ 1 のウエスト伸縮部 G 1 では、図 2 に示すように、複数本の弾性部材 7 1 が、一対の外側固定領域 3 T 1 , 3 T 1 間に亘って配されており、それらの弾性部材 7 1 は、一対の外側固定領域 3 T 1 , 3 T 1 それぞれにおいて、内層シート 5 と外層シート 6 との間に固定されている一方、一対の外側固定領域 3 T 1 , 3 T 1 間においては、内層シート 5 及び外層シート 6 の何れにも固定されていない。詳述すると、おむつ 1 のウエスト伸縮部 G 1 では、複数本の弾性部材 7 1 が、一対の外側固定領域 3 T 1 , 3 T 1 間に亘って配されており、それらの弾性部材 7 1 は、一対の外側固定領域 3 T 1 , 3 T 1 それぞれにおいて、内層シート 5 に形成された後述する親水性短寸部 4 T S と外層シート 6 との間に固定されている一方、横方向 Y の中央領域を含む一対の外側固定領域 3 T 1 , 3 T 1 間においては、内層シート 5 に形成された後述する親水性短寸部 4 T S 及び外層シート 6 の何れにも固定されていない。

【 0 0 2 7 】

また、おむつ 1 の胴回り下部伸縮部 G 2 では、図 2 に示すように、複数本の弾性部材 7 1 が、外側固定領域 3 T 1 と本体側固定領域 3 T 2 との間に亘って配されており、それらの弾性部材 7 1 は、外側固定領域 3 T 1 と本体側固定領域 3 T 2 とのそれぞれにおいて、内層シート 5 と外層シート 6 との間に固定されている一方、外側固定領域 3 T 1 と本体側固定領域 3 T 2 との間においては、内層シート 5 及び外層シート 6 の何れにも固定されていない。おむつ 1 の胴回り下部伸縮部 G 2 では、一対の本体側固定領域 3 T 2 , 3 T 2 の間には、弾性部材 7 1 が配されていないか、或いは、弾性部材 7 1 が、弾性伸縮性を発現しないように細かく分断される等の処理を施された状態で配されている。

【 0 0 2 8 】

尚、おむつ 1 のレッグ伸縮部 G 3 では、図 2 に示すように、レッグ開口部 L H の周縁部に伸長状態で配された複数のレッグ弾性部材 7 2 が、レッグ開口部 L H の周縁部に面状に配された弾性部材固定用接着剤を介して内層シート 5 と外層シート 6 との間に固定されている。

【 0 0 2 9 】

おむつ 1 の外装体 3 では、図 1 及び図 2 に示すように、ウエスト伸縮部 G 1 及び胴回り下部伸縮部 G 2 において、内層シート 5 と外層シート 6 との間に横方向 (Y 方向) に伸長状態で配され且つ縦方向 (X 方向) に間欠的に配された複数の弾性部材 7 1 の収縮により、横方向 (Y 方向) に隣接する接合部列 8 L , 8 L どうしの間を外層シート 6 が外方に膨らむように変形し、外層の折り返し部分 6 E 及び内層シート 5 が内方に膨らむように変形してギャザー部が形成されている。上述したように、横方向 Y の中央領域においては、弾性部材 7 1 が内層シート 5 に形成された後述する親水性短寸部 4 T S に固定されていないので、内方に膨らむように変形して形成される空間によって、親水性短寸部 4 T S に吸収された汗が蒸発し易くなる。

【 0 0 3 0 】

背側ウエストフラップ F B は、伸縮領域 S T において、親水性の繊維からなる親水性領域 4 T を備えた不織布を有しているところ、おむつ 1 では、背側ウエストフラップ F B は、伸縮領域 S T において、構成する不織布として、疎水性の繊維からなる疎水性不織布からなる内層シート 5 を有し、内層シート 5 は、親水化剤を横方向 Y の全長に亘って塗布して、親水性の繊維から形成された親水性領域 4 T を備えている。このように、おむつ 1 では、親水性領域 4 T は、疎水性不織布 (内層シート 5) と別個独立した不織布から形成されておらず、疎水性の繊維からなる疎水性不織布 (内層シート 5) の全域の一部に、親水

10

20

30

40

50

化剤を塗布して形成された領域である。おむつ1の背側ウエストフラップFBにおいては、親水性の親水性領域4Tは、背側ウエストフラップFBを構成する、着用者の肌に近く且つ疎水性不織布で形成された内層シート5の横方向(Y方向)の全長に亘って、親水化剤を内層シート5の一部に塗布して形成されている。

【0031】

おむつ1では、図2に示すように、背側ウエストフラップFBの伸縮領域STに、汗を吸収可能な親水性領域4Tが配されている。親水性の親水性領域4Tは、おむつ1では、背側ウエストフラップFBの伸縮領域ST、即ち、ウエスト伸縮部G1に胴回り下部伸縮部G2の一部を合わせた領域に配されている。

【0032】

上述の通り、おむつ1では、親水性領域4Tを備えた不織布である内層シート5が、図2及び図3に示すように、おむつ1の背側領域Bにおける縦方向Xの外端部1B、言い換えれば、ウエスト開口部WHの周縁部に位置する折り返し部RPにて折り返されているところ、親水性領域4Tが折り返し部RPにて折り返されており、図3に示すように、疎水性不織布(内層シート5)の親水性領域4Tは、その縦方向(X方向)に関し、着用者の肌に近い側が長くなるように折り返し部RPを跨いでいる。そして、おむつ1では、内層シート5の親水性領域4Tは、着用者の肌に近い側に配され且つ折り返し部RPから縦方向(X方向)に長く延在する親水性長寸部4TLと、親水性長寸部4TLから着用者の肌に遠い側に配され且つ親水性長寸部4TLよりも縦方向(X方向)に短い親水性短寸部4TSとに区分されている。おむつ1では、親水性長寸部4TL及び親水性短寸部4TSが、それぞれ、弾性部材71よりも着用者の肌に近い側に配されている。そして、親水性長寸部4TLが、親水性短寸部4TSよりも着用者の肌に近い側に配されている。また、おむつ1では、親水性長寸部4TLと親水性短寸部4TSとが互いに当接するように重なっている。

【0033】

親水性領域4Tを形成する親水化剤としては、使い捨ておむつ等の吸収性物品に用いられる公知の親水化剤を用いることができる。尚、おむつ1では、背側ウエストフラップFBにのみ親水性領域4Tが形成されているが、背側ウエストフラップFB及び腹側ウエストフラップFAに形成されていてもよい。このように、親水性領域4Tが背側ウエストフラップFB及び腹側ウエストフラップFAに形成されている場合には、肌側不織布(例えば内層シート5)に塗布する親水化剤の坪量は、腹側ウエストフラップFA側と背側ウエストフラップFB側とで同じ量であることが好ましく、腹側ウエストフラップFA側の親水性領域4Tの親水性の程度と背側ウエストフラップFB側の親水性領域4Tの親水性の程度は同じであることが好ましい。

【0034】

おむつ1では、着用時に着用者の背側で多量の汗を吸汗する観点から、内層の折り返し部分5Eの縦方向(X方向)の長さ(L1)に対する親水性長寸部4TLの縦方向(X方向)の長さ(L2)の割合($(L2/L1) \times 100$)が、80%以上であることが好ましく、90%以上であることが更に好ましく、上限は100%である。前記長さ(L1)、(L2)は、おむつ1を展開させかつ伸長させた状態における長さである。吸収体23に吸収された体液が移行しないようにする観点から、内層の折り返し部分5Eの股下領域C側の内端部にまで親水性長寸部4TLが亘っておらず、該内端部には疎水性の構成繊維からなる疎水性の領域が存在していることが好ましい。

【0035】

尚、親水性長寸部4TLは親水性短寸部4TSよりも縦方向Xの長さが長ければよく、例えば、内層の折り返し部分5Eの全域が親水性長寸部4TLとなっていてよい。内層の折り返し部分5Eの全域が親水性長寸部4TLである場合、内層の折り返し部分5Eの股下領域C側の内端部は、吸収体23に吸収された体液が移行しないようにする観点から、吸収体23の縦方向Xの後端部23Bに接する位置まで延在していないことが好ましい。即ち、内層の折り返し部分5Eの股下領域C側の内端部と、吸収体23の縦方向Xの後

10

20

30

40

50

端部 23B とは、間隔を空けて配されていることが好ましい。

【0036】

また、おむつ 1 では、着用時に着用者の背側で多量の汗を吸汗する観点から、親水性長寸部 4TL の縦方向 (X 方向) の長さ (L2) に対する親水性短寸部 4TS の縦方向 (X 方向) の長さ (L3) の割合 ($(L3/L2) \times 100$) が、3% 以上であることが好ましく、5% 以上であることが更に好ましく、そして、80% 以下であることが好ましく、70% 以下であることが更に好ましく、具体的には、3% 以上 80% 以下であることが好ましく、5% 以上 70% 以下であることが更に好ましい。前記長さ (L3) は、おむつ 1 を展開させかつ伸長させた状態における長さである。

【0037】

好適に、内層の折り返し部分 5E の縦方向 (X 方向) の長さ (L1) は、20mm 以上であることが好ましく、30mm 以上であることが更に好ましく、そして、120mm 以下であることが好ましく、100mm 以下であることが更に好ましく、具体的には、20mm 以上 120mm 以下であることが好ましく、30mm 以上 100mm 以下であることが更に好ましい。

親水性長寸部 4TL の縦方向 (X 方向) の長さ (L2) は、20mm 以上であることが好ましく、30mm 以上であることが更に好ましく、そして、100mm 以下であることが好ましく、90mm 以下であることが更に好ましく、具体的には、20mm 以上 100mm 以下であることが好ましく、30mm 以上 90mm 以下であることが更に好ましい。

親水性短寸部 4TS の縦方向 (X 方向) の長さ (L3) は、1mm 以上であることが好ましく、2mm 以上であることが更に好ましく、そして、80mm 以下であることが好ましく、60mm 以下であることが更に好ましく、具体的には、1mm 以上 80mm 以下であることが好ましく、2mm 以上 60mm 以下であることが更に好ましい。

【0038】

おむつ 1 では、弾性部材 71 は、図 3 に示すように、親水性長寸部 4TL と親水性短寸部 4TS とが互いに重なっている領域、言い換えれば、親水性短寸部 4TS に対応する領域に、糸状 (板状を含む) の弾性部材を少なくとも 1 本以上有していることが好ましい。このような糸状の弾性部材を有していると、重なっている領域に弾性部材の収縮による繊維の高密度化が起こり難いので、おむつ 1 の着用中にウエスト開口部 WH の周縁部に位置する折り返し部 RP 側に、親水性領域 4T で吸収した汗を移行し易く、ウエスト開口部 WH の周縁部からの汗の蒸発を促すことができる。

【0039】

上述したおむつ 1 の各部の形成材料について説明する。

おむつ 1 では、外装体 3 を構成する内層の折り返し部分 5E が内層シート 5 の折り返し部分 5E で形成されているので、内層の折り返し部分 5E を含む内層シート 5 の全体が疎水性の繊維で構成された疎水性のシートで形成されている。また、おむつ 1 では、外装体 3 を構成する外層の折り返し部分 6E が外層シート 6 の折り返し部分 6E で形成されているので、外層の折り返し部分 6E を含む外層シート 6 の全体が疎水性の繊維で構成された疎水性のシートで形成されている。

【0040】

内層シート 5 (内層の折り返し部分 5E) 及び外層シート 6 (外層の折り返し部分 6E を含む) に用いる疎水性のシートを構成する疎水性繊維としては、熱可塑性の合成繊維が挙げられ、具体的には、各種不織布の構成繊維として通常用いられているものを用いることができ、例えば、ポリエチレン (PE) 繊維、ポリプロピレン (PP) 繊維等のポリオレフィン繊維; ポリエチレンテレフタレート (PET)、ポリアミド等の熱可塑性樹脂を単独で用いてなる繊維; 芯鞘型、サイドバイサイド型等の構造の複合繊維が挙げられる。

【0041】

親水性領域 4T を形成する親水化剤は、衛生品用途に使用される一般的な親水化剤であれば特に限定されない。親水性領域 4T を構成する繊維が親水性であるか疎水性であるかの判断は、以下に述べる〔繊維の接触角の測定方法〕で測定される構成繊維の接触角に基

10

20

30

40

50

づき判断される。具体的には、接触角が90°以上であれば、親水度の低い疎水性と判断し、接触角が90°より小さければ、親水度の高い親水性と判断する。

【0042】

〔繊維の接触角の測定方法〕

接触角の測定には、例えば協和界面科学株式会社製の接触角計MCA-Jを用いる。具体的には、親水性領域4Tを構成する繊維の表面に、イオン交換水を滴下(約20ピコリットル)した後、直ちに前記接触角計を用いて接触角度の測定を行う。測定は、親水性領域4Tを構成する繊維の5箇所以上の箇所で行い、それらの平均値を接触角とする。尚、測定環境温度は20とする。

【0043】

吸収性本体2を構成する表面シート21、裏面シート22、吸収体23及び防漏カフ24等としては、使い捨ておむつ等の吸収性物品に従来用いられている各種のもの等を特に制限なく用いることができる。例えば、表面シート21としては、単層又は多層構造の不織布や、開孔フィルム等を用いることができる。裏面シート22としては、透湿性の樹脂フィルム等を用いることができる。吸収体23の吸収性コア231としては、吸収性ポリマーの粒子及び繊維材料から構成されたものを用いることができ、吸収体23の被覆シート232としては、ティッシュペーパーや不織布等を用いることができる。また、防漏カフ24としては、撥水性の単層又は多層構造の不織布等を用いることができる。

【0044】

弾性部材(防漏カフ形成用弾性部材25、弾性部材71、レッグ弾性部材72等)としては、例えば、スチレン-ブタジエン、ブタジエン、イソプレン、ネオプレン等の合成ゴム、天然ゴム、EVA、伸縮性ポリオレフィン、ポリウレタン等を挙げることができる。弾性部材の形態としては、断面が矩形、正方形、円形、楕円形、若しくは多角形状等の糸状(糸ゴム等)、又は紐状(平ゴム等)のもの等を好ましく用いることができる。

【0045】

弾性部材(防漏カフ形成用弾性部材25、弾性部材71、レッグ弾性部材72等)を固定する弾性部材固定用接着剤、及び外装体3及び吸収性本体2等を固定する本体固定用接着剤としては、使い捨ておむつ等の吸収性物品に従来用いられている各種のホットメルト接着剤等を特に制限なく用いることができる。

【0046】

上述した本発明の一実施形態のおむつ1を使用した際の作用効果について説明する。

おむつ1では、図2及び図3に示すように、背側ウエストフラップFBの伸縮領域STにおいて、背側ウエストフラップFBを構成する不織布である内層シート5に、汗を吸収可能な親水性領域4Tが配されている。そして、親水性領域4Tを備える内層シート5が、図2及び図3に示すように、折り返し部RPにて折り返されて、折り返し部分5Eが横方向(Y方向)に伸長状態で配された弾性部材71よりも着用者の肌に近い側に配されており、親水性領域4Tが、着用者の肌に近い側が縦方向(X方向)に長くなるように折り返し部RPを跨いで配されている。このように折り返し部RPを跨いで親水性領域4Tが配されていると、親水性長寸部4TLと親水性短寸部4TSとが重なる密度の高い折り返し部RPに吸収された汗が移行し易く、折り返し部RPが位置するウエスト開口部WHの周縁部から汗が蒸発し易く、パンツ型使い捨ておむつの着用時の蒸れ感を抑えることができ、湿疹、汗疹、かぶれ等の皮膚トラブルを低減することが期待できる。

【0047】

特に、おむつ1では、親水性領域4Tが、疎水性不織布(内層シート5)と別個独立した不織布から形成されておらず、疎水性の繊維からなる疎水性不織布(内層シート5)の一部に、親水化剤を塗布して形成されている。このように内層シート5及び外層シート6以外の別体の親水性シートを用いていないので、おむつ1の着用中に、背側ウエストフラップFBの伸縮領域STの剛性が高くなり難しく、別体の親水性シートの端縁が着用者の皮膚を刺激することも無いので、肌の赤みを発症し難しく、湿疹、汗疹、かぶれ等の皮膚トラブルを低減することが期待できる。

10

20

30

40

50

【0048】

上記効果を一層確実に奏されるようにする観点から、おむつ1は、以下の一又は二以上の構成を有することが好ましい。

【0049】

おむつ1では、図3に示すように、親水性長寸部4TLと親水性短寸部4TSとは、折り返し部RPにて、接着剤又は熱融着によって互いに固定されていないことが好ましい。親水性長寸部4TLと親水性短寸部4TSとが少なくとも折り返し部RPにて固定されていなければ、汗が蒸発する親水性領域4Tの表面積を確保でき、折り返し部RPにおける親水性長寸部4TL及び親水性短寸部4TSそれぞれの肌対向面及び非肌対向面からの汗の蒸発を促すことができる。

10

【0050】

おむつ1では、図3に示すように、親水性長寸部4TLと親水性短寸部4TSとは、親水性短寸部4TSの全域で、接着剤又は熱融着によって互いに固定されていないことが好ましい。親水性短寸部4TSの全域で親水性長寸部4TLと親水性短寸部4TSとが固定されていなければ、汗が蒸発する親水性領域4Tの表面積を確保でき、折り返し部RPにおける親水性長寸部4TL及び親水性短寸部4TSそれぞれの肌対向面及び非肌対向面からの汗の蒸発を促すことができる。

【0051】

また、背側ウエストフラップFBを構成する不織布として、親水性領域4Tを備えた疎水性不織布からなる内層シート5（内層の折り返し部分5E）以外に、疎水性の繊維からなる第2疎水性不織布として、外層シート6（外層の折り返し部分6Eを含む）を有している。おむつ1では、背側ウエストフラップFBを構成する不織布として、親水性領域4Tを備えた疎水性不織布からなる内層シート5（内層の折り返し部分5E）以外に、別体の疎水性の繊維からなる第2疎水性不織布として、外層シート6（外層の折り返し部分6Eを含む）を有している。そして、外層の折り返し部分6Eが、図3に示すように、親水性長寸部4TLよりも着用者の肌に近い側に配されている。このような場合、外層の折り返し部分6Eは親水性長寸部4TLの全域を覆っていることが好ましい。このように外層の折り返し部分6Eが親水性長寸部4TLの全域を覆っていると、親水性領域4Tに吸収された汗が疎水性の外層の折り返し部分6Eによって着用者の肌へ移行することを防止できる。

20

30

【0052】

尚、親水性領域4Tが外層の折り返し部分6Eを介して汗を吸汗し易い観点から、親水性長寸部4TLと疎水性不織布からなる外層の折り返し部分6Eとは、親水性長寸部4TLに配された熱融着部で固定されていることが好ましい。即ち、内層の折り返し部分5Eに形成された親水性の親水性長寸部4TLと、疎水性の外層の折り返し部分6Eとは、親水性領域4Tにて、散点状に配置された複数の熱融着による接合部（熱融着部）で固定されていることが好ましい。このような熱融着部は、ヒートシール、超音波シール、高周波シール等の各種公知の方法を用いて形成することができる。

【0053】

以上、本発明をその好ましい実施形態に基づき説明したが、本発明は上述した実施形態に制限されず適宜変更可能である。以下に示す他の実施形態の使い捨ておむつにおいては、図3に示すおむつ1と同じ部位には同じ番号を付して説明する。

40

【0054】

例えば、上述したおむつ1は、図3に示すように、背側ウエストフラップFBを構成する不織布として、内層シート5、内層の折り返し部分5E、外層シート6及び外層の折り返し部分6Eを有しているが、図4に示すおむつ1のように、内層シート5及び外層シート6以外に、別体の疎水性の繊維からなる疎水性不織布9を有していてもよい。具体的に、図4に示すおむつ1では、別体の疎水性不織布9が、外層の折り返し部分6Eと内層シート5との間に配されており、親水性領域4Tは、別体の疎水性不織布9の全域に、親水化剤を塗布して形成されている。その為、一方の折り返し部分91及び他方の折り返し部

50

分 9 2 が何れも、弾性部材 7 1 よりも着用者の肌に近い側に配されている。よって、図 4 に示すおむつ 1 では、図 3 に示すおむつ 1 と同様に、親水性長寸部 4 T L 及び親水性短寸部 4 T S が、それぞれ、弾性部材 7 1 よりも着用者の肌に近い側に配されている。そして、親水性長寸部 4 T L が、親水性短寸部 4 T S よりも着用者の肌に近い側に配されている。また、おむつ 1 では、親水性長寸部 4 T L と親水性短寸部 4 T S とが互いに当接するように重なっている。図 4 に示すおむつ 1 によれば、図 3 に示すおむつ 1 と同様の効果を奏すると共に、特に親水性領域 4 T が別体の疎水性不織布 9 の全域に形成されているので、おむつ 1 の横方向 Y における吸汗領域の長さを自由に調節しやすい。尚、一方の折り返し部分 9 1 に形成される親水性長寸部 4 T L の股下領域 C 側の内端部と、吸収体 2 3 の縦方向 X の後端部 2 3 B とは、吸収体 2 3 に吸収された体液が移行しないようにする観点から、間隔を空けて配されていることが好ましい。

10

【 0 0 5 5 】

また、上述したおむつ 1 は、図 3 に示すように、背側ウエストフラップ F B を構成する不織布として、内層シート 5、内層の折り返し部分 5 E、外層シート 6 及び外層の折り返し部分 6 E を有しているが、図 5 に示すおむつ 1 のように、内層シート 5 及び外層シート 6 以外に、別体の不織布製の別シート 9 0 を有していてもよい。具体的に、図 5 に示すおむつ 1 では、別シート 9 0 が、内層シート 5 及び外層シート 6 を挟むように、おむつ 1 の背側領域 B における縦方向 X の外端部 1 B、言い換えれば、ウエスト開口部 W H の周縁部に位置する折り返し部 R P にて折り返されて、一方の折り返し部分 9 1 0 が横方向 (Y 方向) に伸長状態で配された弾性部材 7 1 よりも着用者の肌に近い側に配され且つ内層シート 5 の肌対向面に配されている。そして、他方の折り返し部分 9 2 0 が弾性部材 7 1 よりも着用者の肌に遠い側に配され且つ外層シート 6 の非肌対向面に配されている。また、親水性領域 4 T は、別シート 9 0 の全域に、親水化剤を塗布して形成されている。よって、図 5 に示すおむつ 1 では、親水性長寸部 4 T L が弾性部材 7 1 よりも着用者の肌に近い側に配され、親水性短寸部 4 T S が弾性部材 7 1 よりも着用者の肌に遠い側に配されて、親水性長寸部 4 T L と親水性短寸部 4 T S とで弾性部材 7 1 を挟んでいる。このように、親水性長寸部 4 T L が、親水性短寸部 4 T S よりも着用者の肌に近い側に配されている。図 5 に示すおむつ 1 によれば、図 3 に示すおむつ 1 と同様の効果を奏すると共に、特に親水性長寸部 4 T L と親水性短寸部 4 T S とで弾性部材 7 1 を挟んでいるので、弾性部材 7 1 の介在により親水性長寸部 4 T L と親水性短寸部 4 T S とが互いに隔てられ易く、親水性長寸部 4 T L 及び親水性短寸部 4 T S それぞれの肌対向面及び非肌対向面からの汗の蒸発を促すことができる。尚、一方の折り返し部分 9 1 0 に形成される親水性長寸部 4 T L の股下領域 C 側の内端部と、吸収体 2 3 の縦方向 X の後端部 2 3 B とは、吸収体 2 3 に吸収された体液が移行しないようにする観点から、間隔を空けて配されていることが好ましい。

20

30

【 0 0 5 6 】

また、図 5 に示すおむつ 1 では、内層シート 5 及び外層シート 6 が、疎水性の繊維からなる疎水性不織布で形成されていれば、背側ウエストフラップ F B を構成する不織布は、親水性領域 4 T を備えた別シート 9 0 以外に、疎水性不織布として、内層シート 5 及び外層シート 6 を有するようになる。図 5 に示すおむつ 1 によれば、親水性長寸部 4 T L と親水性短寸部 4 T S とで、疎水性不織布からなる内層シート 5 及び外層シート 6 を挟んでいるので、疎水性不織布の介在により親水性長寸部 4 T L と親水性短寸部 4 T S とが互いに隔てられ、親水性長寸部 4 T L 及び親水性短寸部 4 T S それぞれの肌対向面及び非肌対向面からの汗の蒸発を促すことができる。

40

【 0 0 5 7 】

また、図 5 に示すおむつ 1 においては、別シート 9 0 として、親水性の繊維からなる親水性不織布と、疎水性の繊維からなる疎水性不織布との積層シートを用いてもよい。このような積層シートを別シート 9 0 として用いる場合、一方の折り返し部分 9 1 0 において、親水性不織布の肌対向面上に疎水性不織布が配され、他方の折り返し部分 9 2 0 において、親水性不織布の非肌対向面上に疎水性不織布が配されるように積層されていることが

50

好ましい。このように、一方の折り返し部分 910 において親水性不織布の肌対向面上に疎水性不織布が配されていると、親水性不織布に吸収された汗が疎水性不織布によって着用者の肌へ移行することを防止できる。尚、親水性不織布が、親水性不織布を覆う疎水性不織布を介して汗を吸汗し易い観点から、親水性不織布と疎水性不織布とは、親水性不織布に配された熱融着部で固定されていることが好ましい。親水性不織布と、疎水性不織布とは、親水性不織布にて、散点状に配置された複数の熱融着による接合部（熱融着部）で固定されていることが好ましい。このような熱融着部は、ヒートシール、超音波シール、高周波シール等の各種公知の方法を用いて形成することができる。

【0058】

また、上述したおむつ 1 は、図 3 に示すように、背側ウエストフラップ FB を構成する不織布として、内層シート 5、内層の折り返し部分 5E、外層シート 6 及び外層の折り返し部分 6E を有しており、内層シート 5 及び内層の折り返し部分 5E の一部に親水性領域 4T を形成しているが、図 6 に示すおむつ 1 のように、外層シート 6 及び外層の折り返し部分 6E の一部に親水性領域 4T を形成してもよい。図 6 に示すおむつ 1 では、内層シート 5 及び外層シート 6 が疎水性不織布で形成されており、外層シート 6 の一部に親水化剤を塗布して親水性領域 4T が形成されている。また、疎水性不織布（外層シート 6）の親水性領域 4T は、着用者の肌に近い側が縦方向（X 方向）に長くなるように折り返し部 RP を跨いでいる。図 6 に示すおむつ 1 では、外層シート 6 の親水性領域 4T は、着用者の肌に近い側に配され且つ折り返し部 RP から縦方向（X 方向）に長く延在する親水性長寸部 4TL と、親水性長寸部 4TL よりも縦方向（X 方向）に短い親水性短寸部 4TS とに区分されている。

【0059】

図 6 に示すおむつ 1 では、親水性長寸部 4TL が弾性部材 71 よりも着用者の肌に近い側に配され、親水性短寸部 4TS が弾性部材 71 よりも着用者の肌に遠い側に配されて、親水性長寸部 4TL と親水性短寸部 4TS とで弾性部材 71 を挟んでいる。このように、親水性長寸部 4TL が、親水性短寸部 4TS よりも着用者の肌に近い側に配されている。図 6 に示すおむつ 1 によれば、図 3 に示すおむつ 1 と同様の効果を奏すると共に、特に親水性長寸部 4TL と親水性短寸部 4TS とで弾性部材 71 を挟んでいるので、弾性部材 71 の介在により親水性長寸部 4TL と親水性短寸部 4TS とが互いに隔てられ易く、親水性長寸部 4TL 及び親水性短寸部 4TS それぞれの肌対向面及び非肌対向面からの汗の蒸発を促すことができる。尚、外層の折り返し部分 6E に形成される親水性長寸部 4TL の股下領域 C 側の内端部と、吸収体 23 の縦方向 X の後端部 23B とは、吸収体 23 に吸収された体液が移行しないようにする観点から、間隔を空けて配されていることが好ましい。

【0060】

また、図 6 に示すおむつ 1 では、内層シート 5 も疎水性の繊維からなる疎水性不織布で形成されているので、背側ウエストフラップ FB を構成する不織布は、親水性領域 4T を備えた疎水性不織布からなる外層シート 6 以外に、疎水性不織布からなる内層シート 5 を有するようになる。図 6 に示すおむつ 1 によれば、親水性長寸部 4TL と親水性短寸部 4TS とで、疎水性不織布からなる内層シート 5 を挟んでいるので、疎水性不織布の介在により親水性長寸部 4TL と親水性短寸部 4TS とが互いに隔てられ、親水性長寸部 4TL 及び親水性短寸部 4TS それぞれの肌対向面及び非肌対向面からの汗の蒸発を促すことができる。尚、図 6 に示すおむつ 1 は、親水性長寸部 4TL と親水性短寸部 4TS との間を更に隔てる観点から、内層シート 5 が、おむつ 1 の背側領域 B における縦方向 X の外端部 1B に位置する折り返し部 RP にて折り返された折り返し部分 5E を有する形態であってもよい。

【0061】

また、上述したおむつ 1 は、図 3 に示すように、背側ウエストフラップ FB を構成する不織布として、内層シート 5、内層の折り返し部分 5E、外層シート 6 及び外層の折り返し部分 6E を有しており、内層シート 5 及び内層の折り返し部分 5E の一部に親水性領域

4 Tを形成しているが、図7に示すおむつ1のように、内層シート5を、外層シート6の外層の折り返し部分6 Eで形成し、外層シート6及び外層の折り返し部分6 Eの一部に親水性領域4 Tを形成してもよい。図7に示すおむつ1では、外層シート6が疎水性不織布で形成されており、外層シート6の一部に親水化剤を塗布して親水性領域4 Tが形成されている。また、疎水性不織布(外層シート6)の親水性領域4 Tは、着用者の肌に近い側が縦方向(X方向)に長くなるように折り返し部R Pを跨いでいる。図7に示すおむつ1では、親水性領域4 Tは、着用者の肌に近い側に配され且つ折り返し部R Pから縦方向(X方向)に長く延在する親水性長寸部4 T Lと、親水性長寸部4 T Lよりも縦方向(X方向)に短い親水性短寸部4 T Sとに区分されている。このような図7に示すおむつ1は、内層シート5が外層シート6の外層の折り返し部分6 Eで形成されており、構成部材が少ないので、通気性が高く蒸発しやすいのに加え、材料コストを抑えることができる。

10

【0062】

図7に示すおむつ1では、親水性長寸部4 T Lが弾性部材7 1よりも着用者の肌に近い側に配され、親水性短寸部4 T Sが弾性部材7 1よりも着用者の肌に遠い側に配されて、親水性長寸部4 T Lと親水性短寸部4 T Sとで弾性部材7 1を挟んでいる。このように、親水性長寸部4 T Lが、親水性短寸部4 T Sよりも着用者の肌に近い側に配されている。図7に示すおむつ1によれば、図3に示すおむつ1と同様の効果を奏すると共に、特に親水性長寸部4 T Lと親水性短寸部4 T Sとで弾性部材7 1を挟んでいるので、弾性部材7 1の介在により親水性長寸部4 T Lと親水性短寸部4 T Sとが互いに隔てられ易く、親水性長寸部4 T L及び親水性短寸部4 T Sそれぞれの肌対向面及び非肌対向面からの汗の蒸発を促すことができる。尚、外層の折り返し部分6 Eに形成される親水性長寸部4 T Lの股下領域C側の内端部と、吸収体2 3の縦方向Xの後端部2 3 Bとは、吸収体2 3に吸収された体液が移行しないようにする観点から、間隔を空けて配されていることが好ましい。

20

【0063】

また、上述したおむつ1は、図3に示すように、背側ウエストフラップF Bを構成する不織布として、内層シート5、内層の折り返し部分5 E、外層シート6及び外層の折り返し部分6 Eを有しており、内層シート5及び内層の折り返し部分5 Eの一部に親水性領域4 Tを形成しているが、図8に示すおむつ1のように、外層の折り返し部分6 Eを有さない形態であってもよい。図8に示すおむつ1では、内層シート5の内層の折り返し部分5 Eが、吸収体2 3の縦方向Xの後端部2 3 B、即ち、吸収性本体2の縦方向Xの端部を被覆している。疎水性不織布(内層シート5)の親水性領域4 Tは、着用者の肌に近い側が縦方向(X方向)に長くなるように折り返し部R Pを跨いでいる。図8に示すおむつ1では、親水性領域4 Tは、着用者の肌に近い側に配され且つ折り返し部R Pから縦方向(X方向)に長く延在する親水性長寸部4 T Lと、親水性長寸部4 T Lよりも縦方向(X方向)に短い親水性短寸部4 T Sとに区分されている。

30

【0064】

図8に示すおむつ1では、親水性長寸部4 T L及び親水性短寸部4 T Sが弾性部材7 1よりも着用者の肌に近い側に配され、親水性長寸部4 T Lが、親水性短寸部4 T Sよりも着用者の肌に近い側に配されている。また、おむつ1では、背側ウエストフラップF B及び腹側ウエストフラップF Aは、内層シート5と外層シート6とが、散点状に配置された複数の熱融着による接合部8にて接合固定されて形成されており、接合部8で固定された内層シート5と外層シート6との間に、横方向(Y方向)に伸長した状態で配され且つ縦方向(X方向)に間欠的に配された複数の弾性部材7 1を有している。図8に示すおむつ1によれば、図3に示すおむつ1と同様の効果を奏すると共に、(1)内層シート5及び内層の折り返し部分5 Eの一部に親水性領域4 Tが形成されていること、(2)内層シート5と外層シート6との間がウエスト開口部W Hにおいて解放されていること、(3)弾性部材7 1縮時に背側ウエストフラップF Bを構成する不織布間に空間ができることと相俟って、吸汗した汗が蒸発しやすい。尚、内層の折り返し部分5 Eに形成される親水性長寸部4 T Lの股下領域C側の内端部と、吸収体2 3の縦方向Xの後端部2 3 Bとは、吸収体

40

50

23に吸収された体液が移行しないようにする観点から、間隔を空けて配されていることが好ましい。

【0065】

本発明の吸収性物品は、上述の図3～図8のおむつ1に何ら制限されるものではなく、適宜変更可能である。また、上述の図3～図8のおむつ1における各構成要件は、本発明の趣旨を損なわない範囲で、適宜組み合わせる実施できる。

【0066】

また、上述したおむつ1は、図3に示すように、弾性部材71が全て糸状（帯状を含む）の弾性部材であるが、フィルム状、或いは、弾性繊維からなる弾性繊維層状の弾性部材から構成されていてもよい。

【0067】

また、上述した使い捨ておむつ1においては、図2に示すように、背側ウエストフラップFBにのみ、伸縮領域STに親水性の親水化剤を塗布した親水性領域4Tを配しているが、腹側ウエストフラップFAにも親水性領域4Tを配していてもよい。

【0068】

また、上述した使い捨ておむつ1においては、図2に示すように、外装体3が腹側領域A、股下領域C及び背側領域Bにわたる砂時計状等の連続した形状のパンツ型使い捨ておむつであるが、外装体3が、腹側外装体、背側外装体及び股下外装体に別部材として区分された分割型のパンツ型使い捨ておむつであってもよい。

【0069】

また、上述した使い捨ておむつ1においては、図1に示すように、外装体3を有するパンツ型使い捨ておむつであるが、展開型の使い捨ておむつであってもよい。

【0070】

上述した実施形態に関し、さらに以下の使い捨ておむつを開示する。

【0071】

< 1 >

着用者の腹側に配される腹側領域および着用者の背側に配される背側領域と、それらの間に位置する股下領域とを備えると共に、該腹側領域から該背側領域に延びる縦方向と該縦方向に直交する横方向とを備え、前記腹側領域と前記背側領域とに亘って吸収体を有し、該吸収体の縦方向の前後端部それぞれから外方に位置して横方向に延びる腹側ウエストフラップ及び背側ウエストフラップを有する使い捨ておむつであって、

前記背側ウエストフラップには、横方向に伸長状態で配された弾性部材による伸縮領域が形成されており、

前記背側ウエストフラップは、前記伸縮領域において、親水性の繊維からなる親水性領域を備えた不織布を有し、

前記親水性領域を備えた不織布は前記背側領域の縦方向の外端部に位置する折り返し部にて折り返されて、少なくとも一方の折り返し部分が前記弾性部材よりも着用者の肌に近い側に配されており、

前記親水性領域は、縦方向の長さに関し、着用者の肌に近い側が長くなるように前記折り返し部を跨いでいる、使い捨ておむつ。

【0072】

< 2 >

前記親水性領域は、着用者の肌に近い側に配され且つ前記折り返し部から縦方向に長く延在する親水性長寸部と、該親水性長寸部から着用者の肌に遠い側に配され且つ該親水性長寸部よりも縦方向に短い親水性短寸部とに区分され、

前記親水性長寸部と前記親水性短寸部とは、前記折り返し部にて固定されていない、前記< 1 >に記載の使い捨ておむつ。

< 3 >

前記親水性長寸部と前記親水性短寸部とは、該親水性短寸部の全域で互いに固定されていない、前記< 2 >に記載の使い捨ておむつ。

10

20

30

40

50

< 4 >

前記親水性領域は、前記弾性部材よりも着用者の肌に近い側に配され且つ前記折り返し部から縦方向に長く延在する親水性長寸部と、該親水性長寸部よりも縦方向に短い親水性短寸部とに区分され、

前記親水性短寸部は、前記弾性部材よりも着用者の肌に遠い側に配されており、

前記親水性長寸部と前記親水性短寸部とで、前記弾性部材を挟んでいる、前記< 1 > ~ < 3 > の何れか 1 に記載の使い捨ておむつ。

< 5 >

前記親水性領域は、前記弾性部材よりも着用者の肌に近い側に配され且つ前記折り返し部から縦方向に長く延在する親水性長寸部と、該親水性長寸部よりも縦方向に短い親水性短寸部とに区分され、

前記親水性短寸部は、前記弾性部材よりも着用者の肌に遠い側に配されており、

前記背側ウエストフラップを構成する不織布は、前記親水性領域を備えた前記不織布以外に、疎水性の繊維からなる疎水性不織布を有し、

前記親水性長寸部と前記親水性短寸部とで、前記疎水性不織布を挟んでいる、前記< 1 > ~ < 4 > の何れか 1 に記載の使い捨ておむつ。

< 6 >

前記親水性領域は、着用者の肌に近い側に配され且つ前記折り返し部から縦方向に長く延在する親水性長寸部と、該親水性長寸部から着用者の肌に遠い側に配され且つ該親水性長寸部よりも縦方向に短い親水性短寸部とに区分され、

前記弾性部材は、横方向中央領域において、前記親水性短寸部と固定されていない、前記< 1 > ~ < 5 > の何れか 1 に記載の使い捨ておむつ。

< 7 >

前記親水性領域は、着用者の肌に近い側に配され且つ前記折り返し部から縦方向に長く延在する親水性長寸部と、該親水性長寸部から着用者の肌に遠い側に配され且つ該親水性長寸部よりも縦方向に短い親水性短寸部とに区分され、

前記背側ウエストフラップを構成する不織布は、前記親水性領域を備えた不織布以外に、疎水性の繊維からなる第 2 疎水性不織布を有し、

前記第 2 疎水性不織布が、前記親水性長寸部よりも着用者の肌に近い側に配されている、前記< 1 > ~ < 6 > の何れか 1 に記載の使い捨ておむつ。

< 8 >

前記第 2 疎水性不織布と前記親水性長寸部とが、熱融着部で固定されている、前記< 7 > に記載の使い捨ておむつ。

< 9 >

前記親水性領域は、前記背側ウエストフラップを構成する前記親水性領域を備えた不織布の全域の一部に親水化剤を塗布して形成されている、前記< 1 > ~ < 8 > の何れか 1 に記載の使い捨ておむつ。

【 0 0 7 3 】

< 1 0 >

前記親水性領域は、疎水性不織布に親水化剤を塗布して形成されている、前記< 1 > ~ < 9 > の何れか 1 に記載の使い捨ておむつ。

< 1 1 >

前記背側ウエストフラップは、前記伸縮領域において、構成する不織布として、疎水性の繊維からなる疎水性不織布からなる内層シートを有し、該内層シートは、親水化剤を横方向の全長に亘って塗布して形成された前記親水性領域を備えている、前記< 1 > ~ < 1 0 > の何れか 1 に記載の使い捨ておむつ。

< 1 2 >

前記伸縮領域はウエスト伸縮部及び胴回り下部伸縮部を有し、

前記親水性領域は、前記背側ウエストフラップの伸縮領域、即ち、前記ウエスト伸縮部に前記胴回り下部伸縮部の一部を合わせた領域に配されている、前記< 1 > ~ < 1 1 > の

10

20

30

40

50

何れか 1 に記載の使い捨ておむつ。

< 1 3 >

前記親水性領域は、着用者の肌に近い側に配され且つ前記折り返し部から縦方向に長く延在する親水性長寸部と、該親水性長寸部から着用者の肌に遠い側に配され且つ該親水性長寸部よりも縦方向に短い親水性短寸部とに区分され、

前記親水性長寸部及び前記親水性短寸部が、それぞれ、前記弾性部材よりも着用者の肌に近い側に配されており、

前記親水性長寸部が、前記親水性短寸部よりも着用者の肌に近い側に配されている、前記 < 1 > ~ < 1 2 > の何れか 1 に記載の使い捨ておむつ。

< 1 4 >

前記親水性領域は、着用者の肌に近い側に配され且つ前記折り返し部から縦方向に長く延在する親水性長寸部と、該親水性長寸部から着用者の肌に遠い側に配され且つ該親水性長寸部よりも縦方向に短い親水性短寸部とに区分され、

前記親水性長寸部と前記親水性短寸部とが互いに当接するように重なっている、前記 < 1 > ~ < 1 3 > の何れか 1 に記載の使い捨ておむつ。

< 1 5 >

前記親水性領域は、着用者の肌に近い側に配され且つ前記折り返し部から縦方向に長く延在する親水性長寸部と、該親水性長寸部から着用者の肌に遠い側に配され且つ該親水性長寸部よりも縦方向に短い親水性短寸部とに区分され、

前記一方の折り返し部分の縦方向の長さ (L 1) に対する前記親水性長寸部の縦方向の長さ (L 2) の割合 ((L 2 / L 1) × 1 0 0) が、8 0 % 以上、好ましくは 9 0 % 以上であり、上限は 1 0 0 % である、前記 < 1 > ~ < 1 4 > の何れか 1 に記載の使い捨ておむつ。

< 1 6 >

前記親水性領域は、着用者の肌に近い側に配され且つ前記折り返し部から縦方向に長く延在する親水性長寸部と、該親水性長寸部から着用者の肌に遠い側に配され且つ該親水性長寸部よりも縦方向に短い親水性短寸部とに区分され、

前記一方の折り返し部分の前記股下領域側の内端部にまで前記親水性長寸部が亘っておらず、該内端部には疎水性の構成繊維からなる疎水性の領域が存在している、前記 < 1 > ~ < 1 5 > の何れか 1 に記載の使い捨ておむつ。

< 1 7 >

前記親水性領域は、着用者の肌に近い側に配され且つ前記折り返し部から縦方向に長く延在する親水性長寸部と、該親水性長寸部から着用者の肌に遠い側に配され且つ該親水性長寸部よりも縦方向に短い親水性短寸部とに区分され、

前記一方の折り返し部分の全域が前記親水性長寸部となっている、前記 < 1 > ~ < 1 5 > の何れか 1 に記載の使い捨ておむつ。

< 1 8 >

前記一方の折り返し部分の前記股下領域側の内端部と、前記吸収体の縦方向の端部とは、間隔を空けて配されている、前記 < 1 > ~ < 1 7 > の何れか 1 に記載の使い捨ておむつ。

【 0 0 7 4 】

< 1 9 >

前記親水性領域は、着用者の肌に近い側に配され且つ前記折り返し部から縦方向に長く延在する親水性長寸部と、該親水性長寸部から着用者の肌に遠い側に配され且つ該親水性長寸部よりも縦方向に短い親水性短寸部とに区分され、

前記親水性長寸部の縦方向の長さ (L 2) に対する前記親水性短寸部の縦方向の長さ (L 3) の割合 ((L 3 / L 2) × 1 0 0) が、3 % 以上、好ましくは 5 % 以上であり、そして、8 0 % 以下、好ましくは 7 0 % 以下である、前記 < 1 > ~ < 1 8 > の何れか 1 に記載の使い捨ておむつ。

< 2 0 >

10

20

30

40

50

前記一方の折り返し部分の縦方向の長さ（L1）は、20mm以上、好ましくは30mm以上であり、そして、120mm以下、好ましくは100mm以下である、前記<1>~<19>の何れか1に記載の使い捨ておむつ。

<21>

前記親水性領域は、着用者の肌に近い側に配され且つ前記折り返し部から縦方向に長く延在する親水性長寸部と、該親水性長寸部から着用者の肌に遠い側に配され且つ該親水性長寸部よりも縦方向に短い親水性短寸部とに区分され、

前記親水性長寸部の縦方向の長さ（L2）は、20mm以上、好ましくは30mm以上であり、そして、100mm以下、好ましくは90mm以下である、前記<1>~<20>の何れか1に記載の使い捨ておむつ。

10

<22>

前記親水性領域は、着用者の肌に近い側に配され且つ前記折り返し部から縦方向に長く延在する親水性長寸部と、該親水性長寸部から着用者の肌に遠い側に配され且つ該親水性長寸部よりも縦方向に短い親水性短寸部とに区分され、

前記親水性短寸部の縦方向の長さ（L3）は、1mm以上、好ましくは2mm以上であり、そして、80mm以下、好ましくは60mm以下である、前記<1>~<21>の何れか1に記載の使い捨ておむつ。

<23>

前記背側ウエストフラップを構成する不織布は、前記親水性領域を備えた不織布以外に別シートを有し、

20

前記別シートとして、親水性の繊維からなる親水性不織布と、疎水性の繊維からなる疎水性不織布との積層シートを用いる、前記<1>~<22>の何れか1に記載の使い捨ておむつ。

<24>

前記別シートが、前記親水性領域を備えた不織布を挟むように、使い捨ておむつの前記背側領域における縦方向の外端部にて折り返されて、一方の折り返し部分が横方向に伸長状態で配された前記弾性部材よりも着用者の肌に近い側に配され且つ前記親水性領域を備えた不織布の肌対向面に配されており、他方の折り返し部分が前記弾性部材よりも着用者の肌に遠い側に配され且つ前記親水性領域を備えた不織布の非肌対向面に配されており、

前記別シートは、前記一方の折り返し部分において、前記親水性領域を備えた不織布の肌対向面上に前記疎水性不織布が配され、前記他方の折り返し部分において、前記親水性領域を備えた不織布の非肌対向面上に該疎水性不織布が配されるように積層されている、前記<23>に記載の使い捨ておむつ。

30

<25>

前記親水性領域を備えた不織布は、内層シート、内層の折り返し部分、外層シート及び外層の折り返し部分を有しており

前記外層シート及び前記外層の折り返し部分の一部に前記親水性領域が形成されている、前記<1>~<24>の何れか1に記載の使い捨ておむつ。

<26>

前記内層シート及び前記外層シートは疎水性不織布で形成されており、該外層シートの一部に親水化剤を塗布して前記親水性領域が形成されている、前記<25>に記載の使い捨ておむつ。

40

<27>

前記親水性領域を備えた不織布は、内層シート、内層の折り返し部分、外層シート及び外層の折り返し部分を有しており、

前記内層シートが、前記外層シートの前記外層の折り返し部分で形成されており、

前記外層シート及び前記外層の折り返し部分の一部に前記親水性領域が形成されている、前記<1>~<24>の何れか1に記載の使い捨ておむつ。

【0075】

<28>

50

前記親水性領域が背側ウエストフラップ及び前記腹側ウエストフラップに形成されており、

前記腹側ウエストフラップ側の親水性領域の親水性の程度と前記背側ウエストフラップ側の親水性領域の親水性の程度は同じである、前記< 1 > ~ < 27 >の何れか1に記載の使い捨ておむつ。

< 29 >

前記使い捨ておむつは外装体を有し、

前記外装体は、使い捨ておむつの外面を形成する非肌対向面側の外層シート、最も肌対向面側の外層の折り返し部分、並びに、該外層シートと該外層の折り返し部分との間に配された内層シート及び内層の折り返し部分を有し、

前記内層シートの一方向の折り返し部分で形成された内層の折り返し部分は、前記背側領域において、横方向に長い矩形状に形成されている、前記< 1 > ~ < 28 >の何れか1に記載の使い捨ておむつ。

< 30 >

前記使い捨ておむつは外装体を有し、

前記外装体は、使い捨ておむつの外面を形成する非肌対向面側の外層シート、最も肌対向面側の外層の折り返し部分、並びに、該外層シートと該外層の折り返し部分との間に配された内層シート及び内層の折り返し部分を有し、

前記外層シートの折り返し部分で形成された前記外層の折り返し部分は、前記腹側領域及び前記背側領域それぞれにおいて、横方向に長い矩形状に形成されている、前記< 1 > ~ < 29 >の何れか1に記載の使い捨ておむつ。

< 31 >

前記使い捨ておむつは外装体を有し、

前記外装体は、使い捨ておむつの外面を形成する非肌対向面側の外層シート、最も肌対向面側の外層の折り返し部分、並びに、該外層シートと該外層の折り返し部分との間に配された内層シート及び内層の折り返し部分を有し、

前記背側ウエストフラップにおいては、着用者の肌に近い側から遠い側に向かって、前記外層の折り返し部分、前記内層の折り返し部分、前記内層シート、前記外層シートの順に配されている、前記< 1 > ~ < 30 >の何れか1に記載の使い捨ておむつ。

< 32 >

前記使い捨ておむつは外装体を有し、

前記外装体は、使い捨ておむつの外面を形成する非肌対向面側の外層シート、最も肌対向面側の外層の折り返し部分、並びに、該外層シートと該外層の折り返し部分との間に配された内層シート及び内層の折り返し部分を有し、

前記外装体は前記背側ウエストフラップ及び前記腹側ウエストフラップを有し、

前記背側ウエストフラップ及び前記腹側ウエストフラップは、前記内層シートと前記外層シートとが、散点状に配置された複数の熱融着による接合部にて接合固定されて形成されている、前記< 1 > ~ < 31 >の何れか1に記載の使い捨ておむつ。

< 33 >

前記伸縮領域はウエスト伸縮部及び胴回り下部伸縮部を有し、

前記腹側領域及び前記背側領域それぞれの前記ウエスト伸縮部から前記胴回り下部伸縮部に亘る領域に、前記内層シートと前記外層シートとの前記接合部が、縦方向に沿って一列をなすように間欠的に配されており、その複数の接合部からなる接合部列が、横方向に間隔を開けて複数列配されており、

前記腹側領域及び前記背側領域それぞれの前記ウエスト伸縮部から前記胴回り下部伸縮部に亘る領域に、複数本の弾性部材が、それぞれ、複数の前記接合部列それぞれの前記接合部どうし間の隙間を通して、横方向に伸長状態で配されている、前記< 32 >に記載の使い捨ておむつ。

< 34 >

前記使い捨ておむつは、前記吸収体を具備する吸収性本体と、該吸収性本体の非肌対向

10

20

30

40

50

面側に配されて該吸収性本体を固定する外装体とを備え、

前記外装体は、使い捨ておむつの外面を形成する非肌対向面側の外層シートと、内層シートとを有し、

前記使い捨ておむつは、前記吸収性本体の縦方向に沿う両側部の近傍に、前記内層シートと前記外層シートとが弾性部材固定用接着剤を介して接合された一对の本体側固定領域を有している、前記< 1 > ~ < 3 3 >の何れか1に記載の使い捨ておむつ。

< 3 5 >

前記使い捨ておむつは、前記吸収体を具備する吸収性本体と、該吸収性本体の非肌対向面側に配されて該吸収性本体を固定する外装体とを備え、

前記外装体は、使い捨ておむつの外面を形成する非肌対向面側の外層シートと、内層シートとを有し、

前記使い捨ておむつは、前記外装体の前記腹側領域の両側縁部及び該外装体の前記背側領域の両側縁部に、前記内層シートと前記外層シートとが弾性部材固定用接着剤を介して接合された一对の外側固定領域を有しており、

前記弾性部材は、一对の前記外側固定領域それぞれにおいて、前記内層シートと前記外層シートとの間に固定されている一方、一对の該外側固定領域間においては、該内層シート及び該外層シートの何れにも固定されていない、前記< 1 > ~ < 3 4 >の何れか1に記載の使い捨ておむつ。

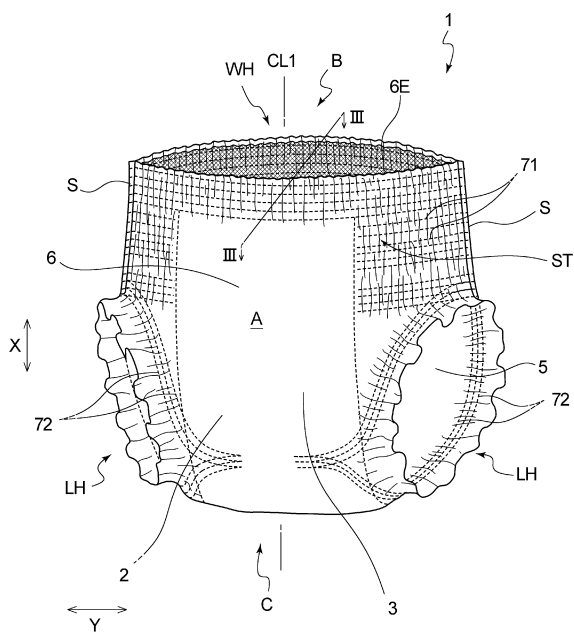
【符号の説明】

【 0 0 7 6 】

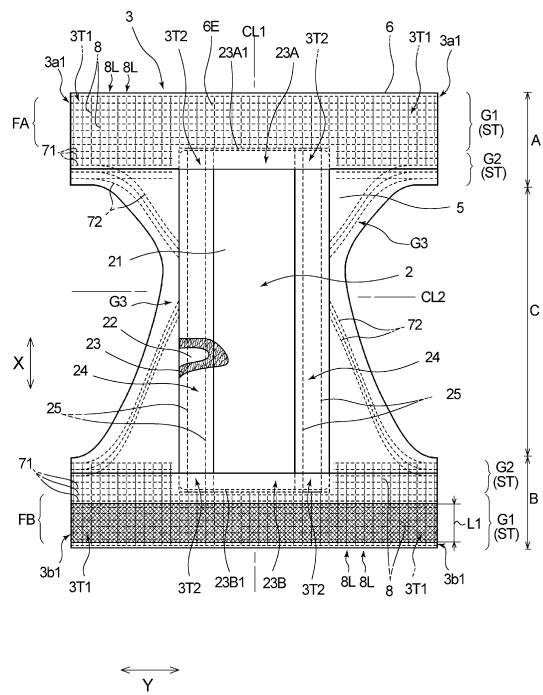
- | | | |
|-------|--------------------|----|
| 1 | パンツ型使い捨ておむつ | |
| 1 B | 背側領域における縦方向の外端部 | |
| 2 | 吸収性本体 | |
| 2 1 | 表面シート | |
| 2 2 | 裏面シート | |
| 2 3 | 吸収体 | |
| 2 4 | 防漏カフ | |
| 2 5 | 防漏カフ形成用弾性部材 | |
| 3 | 外装体 | |
| 4 T | 親水性領域 | 30 |
| 4 T L | 親水性長寸部 | |
| 4 T S | 親水性短寸部 | |
| 5 | 内層シート | |
| 5 E | 内層の折り返し部分 | |
| 6 | 外層シート | |
| 6 E | 外層の折り返し部分 | |
| 7 1 | 弾性部材 | |
| 7 2 | レッグ弾性部材 | |
| 8 | 接合部 | |
| 8 L | 接合部列 | 40 |
| 9 | 疎水性不織布 | |
| 9 1 | 一方の折り返し部分 | |
| 9 2 | 他方の折り返し部分 | |
| 9 0 | 別シート | |
| 9 1 0 | 一方の折り返し部分 | |
| 9 2 0 | 他方の折り返し部分 | |
| A | 腹側領域、B 背側領域、C 股下領域 | |
| S T | 伸縮領域 | |
| F A | 腹側ウエストフラップ | |
| F B | 背側ウエストフラップ | 50 |

R P 折り返し部

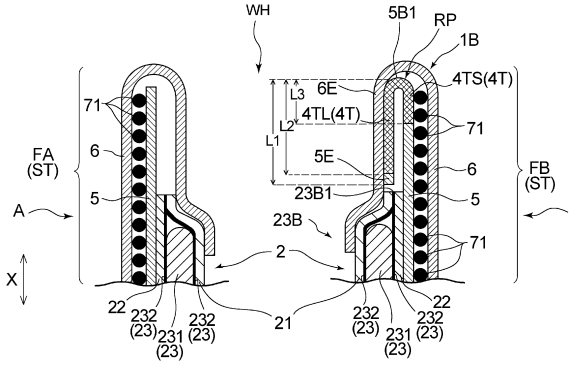
【図1】



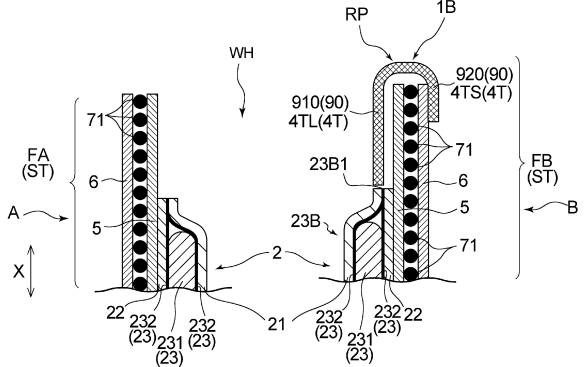
【図2】



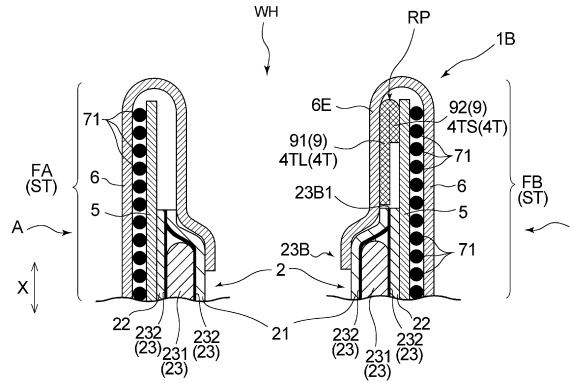
【 図 3 】



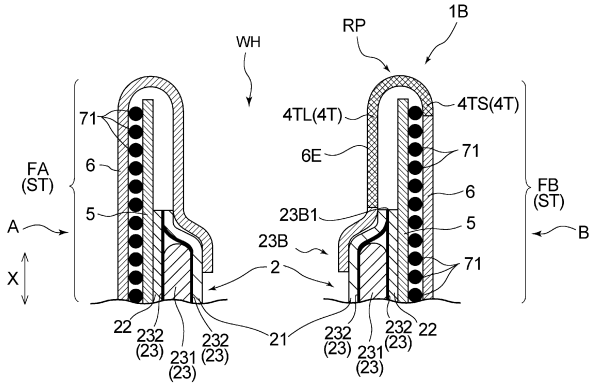
【 図 5 】



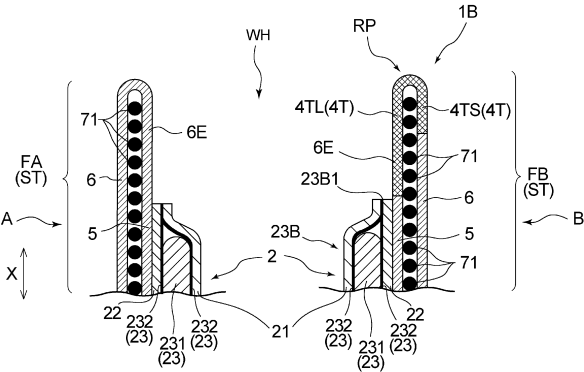
【 図 4 】



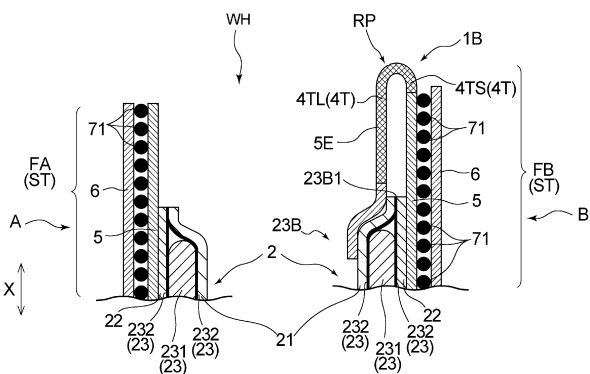
【 図 6 】



【 図 7 】



【 図 8 】



フロントページの続き

審査官 塩治 雅也

(56)参考文献 特開平08-252280(JP,A)
特開平09-299398(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A61F 13/15 - 13/84
A61L 15/16 - 15/64